

脱炭素先行地域 邑南町の事例紹介



島根県邑南町役場 地域みらい課 藤田 浩司



脱炭素

に取り組む理由は？



再生可能エネルギーの導入のため？

温室効果ガスの排出削減？



地球温暖化対策？



首長からのトップダウン？



世界中で日本国内でも脱炭素を進める機運があるから？



自治体によって脱炭素に取り組む理由はまちまち・・・

邑南町の現状

どの自治体も課題解決に苦慮

どこの自治体でもベースとして抱える課題

- 人口減少
- 少子高齢化
- 地域経済の衰退 etc

企業の誘致

商品券の配布 etc

効果の実感が沸かない

人口

1万人下回る

高齢化率

45.5%

電気料金支出の現状

6億円～7億円のお金が町外に支出されている現実



町外への支出を町内消費にして、少しでも資金流出を食い止める

邑南町でできる電力（再生可能エネルギー）を活用し、これまでに無かった産業（経済循環）の確立

経済

環境

富の循環

¥ ¥ ¥ ¥

所得の増加



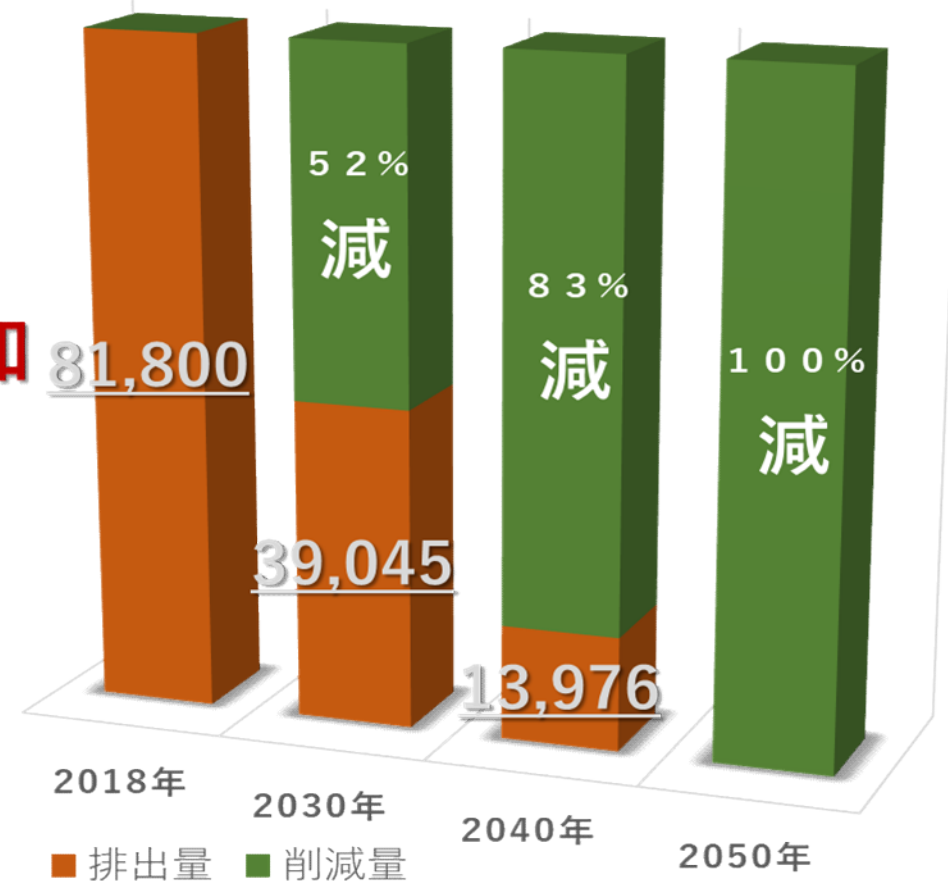
仕事の増加

¥ ¥ ¥ ¥

税収の増加 81,800

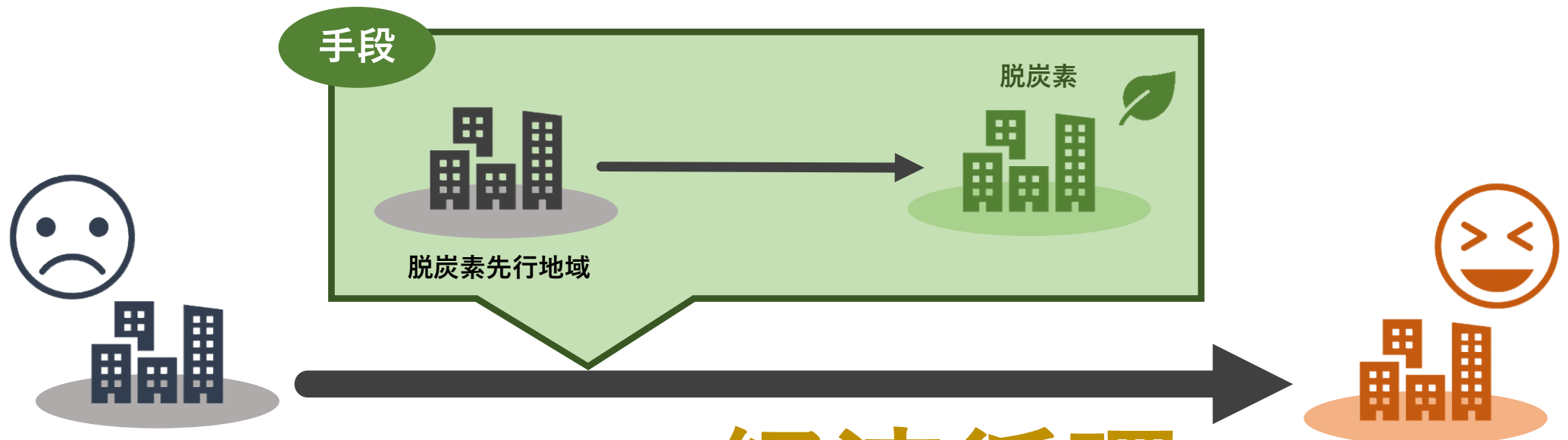
2050年に向けたCO2削減イメージ

(t-CO2)



地域脱炭素で育む
邑南町の礎

地域脱炭素は、あくまで **手段**



脱炭素を手段として、**経済循環**をつくる

脱炭素への地域の反応

○脱炭素をテーマにした出前講座の依頼が増加

出前講座の依頼をいただくための地道な工夫を怠らない

○脱炭素の取組理由の理解

- ・ 地域新電力の必要性
- ・ 再生可能エネルギーの捉え方
- ・ 省エネの工夫や重要性（健康を含む）

取組を理解して行動変容へ

新たな地域の在り方への種まき

○PPAモデルを活用した電力自家消費の検討

○ソーラーシェアリングの検討

地域活動の収入源となるのが目標

○小水力発電の検討

民間の調査会社に地域が依頼し調査に着手

○大学からのインターンの依頼（地元高等学校の卒業生）

■ 邑南町の脱炭素への歩み

2050年カーボンニュートラルを宣言

邑南町再エネ最大限導入計画策定



令和3年
3月

令和4年
2月

邑南町が脱炭素先行地域に選定



令和5年
5月

PPA事業開始（公共）



令和2年
10月

令和4年
1月

令和4年
4月

令和5年
秋頃



邑南町ゼロカーボンシティ宣言

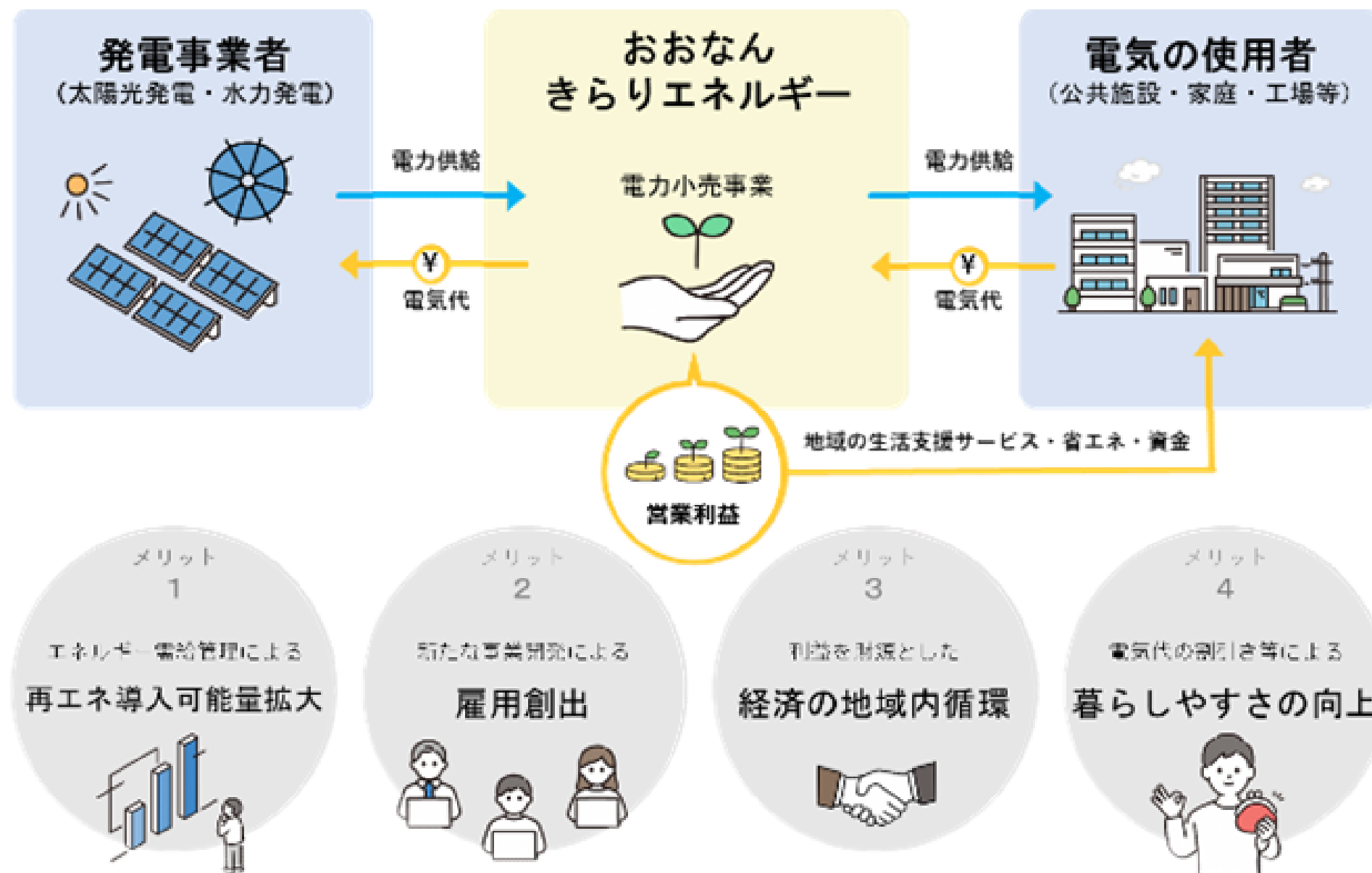


地域新電力会社
「おおなんきらりエネルギー」設立

PPA事業開始（住宅）



小売電気事業

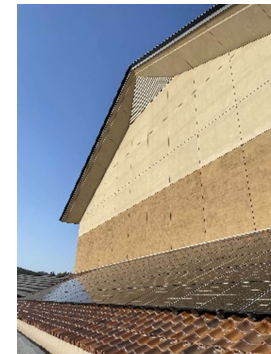


電力自家消費

公共施設・事業所・一般家庭等にPPAスキームを活用した太陽光発電設備の整備を進める

PPA Power Purchase Agreement

企業や自治体等が保有する施設の屋根や遊休地を事業者が借り、無償で発電設備を設置し、発電した電気を当該施設で使用することで、電気料金とCO2排出削減を行う仕組み。



太陽光発電設備の無償設置
メンテナンス・保守管理

屋根・スペースの貸与

発電した電力の供給

電力料金の支払い



需要家

公共施設事例

邑南町健康センター「元気館」

■太陽光発電設備

システム容量 93.48 kW
 年間発電量 83,737 kWh
 年間CO₂削減量 37,263kg-CO₂



邑南町役場 瑞穂支所

■太陽光発電設備

システム容量 44.28 kW
 年間発電量 34,966 kWh
 年間CO₂削減量 15,560kg-CO₂



おおなんケーブルテレビ

■太陽光発電設備

システム容量 24.60 kW
 年間発電量 23,255 kWh
 年間CO₂削減量 10,348kg-CO₂



公共施設事例

● 邑南町健康センター「元気館」

■ 太陽光発電設備

システム容量 93.48 kW
 年間発電量 83,737 kWh
 年間CO₂削減量 37,263kg-CO₂

● 邑南町役場 瑞穂支所

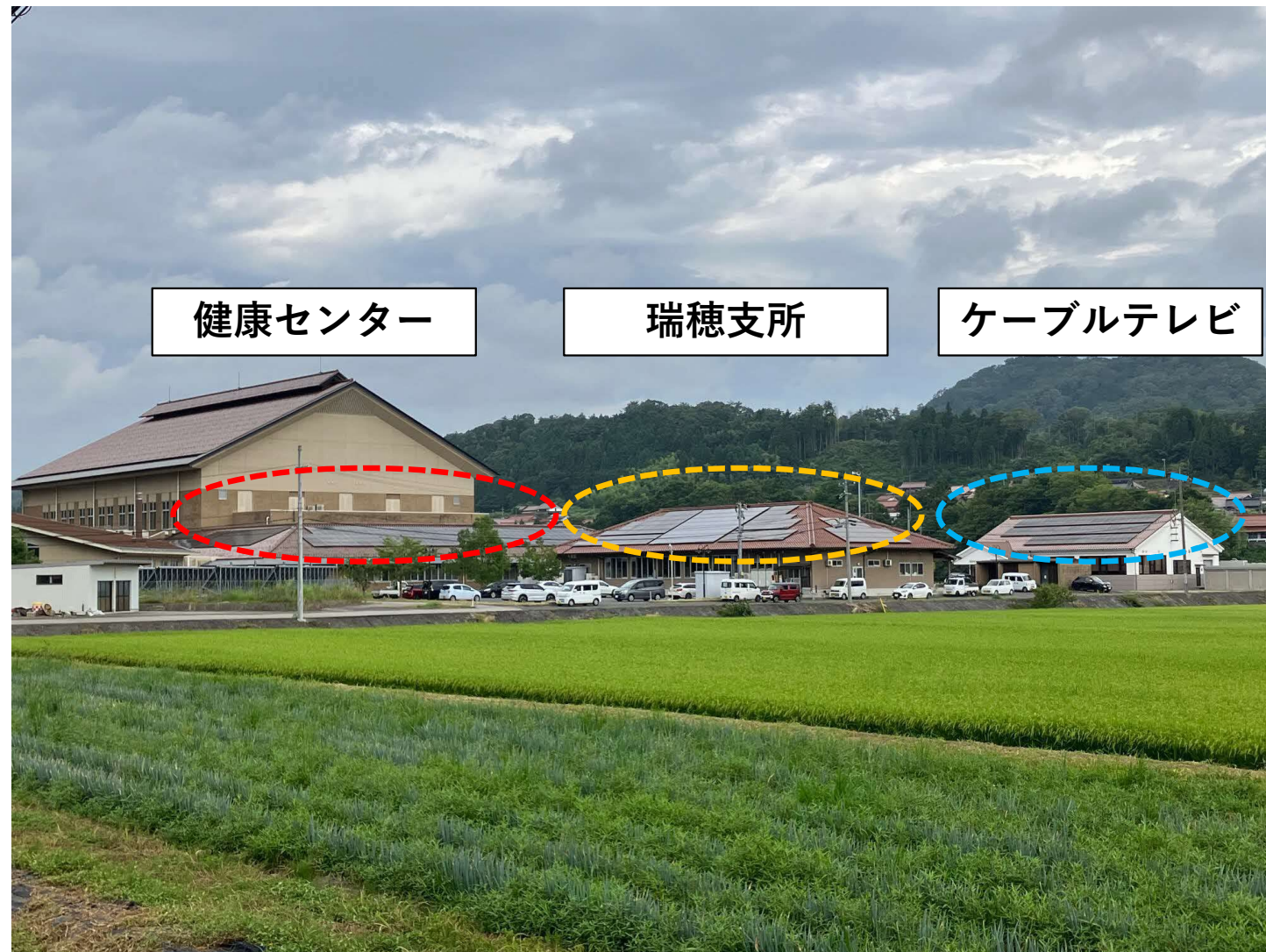
■ 太陽光発電設備

システム容量 44.28 kW
 年間発電量 34,966 kWh
 年間CO₂削減量 15,560kg-CO₂

● おおなんケーブルテレビ

■ 太陽光発電設備

システム容量 24.60 kW
 年間発電量 23,255 kWh
 年間CO₂削減量 10,348kg-CO₂



公共施設事例

田所公民館（山村開発センター）

■太陽光発電設備

システム容量 77.08 k W
年間発電量 73,896kWh
年間CO₂削減量 39,091kg-CO₂



出羽公民館

■太陽光発電設備

システム容量 27.06 k W
年間発電量 25,681kWh
年間CO₂削減量 13,585kg-CO₂



民間住宅事例

施設：新築民間住宅

場所：島根県邑智郡邑南町矢上

工事期間：令和5年2月2日～令和5年3月20日

稼働開始：令和5年5月8日（新築のため入居後稼働）

■太陽光発電設備

システム容量　－　5.025 kW

製品　－　長州産業高効率単結晶太陽電池モジュール
CS-335K41H 335W

年間発電量　　4,643kWh

年間CO₂削減量　940kg-CO₂

■蓄電池設備

蓄電池容量　－　6.5 kWh

製品　－　長州産業スマートPAマルチ6.5 kWh
CB-P65M05A



※太陽光発電設備設置状況



※蓄電池設置状況

農業と発電の両立

発電事業者・地権者・耕作者
それぞれにメリットを準備

農地に太陽光発電設備を推進

⇒ 営農者や地権者の負担にならない形態での導入を想定

積雪と発電時間を考慮



本写真の権利はLuxorSolar株式会社に帰属します

■想定作物

穀物

米・大麦・小麦

野菜

大豆、キャベツ、レタス、ニラ、ショウガ、白菜

ピーマン、ナス、ブドウ、サツマイモ、ジャガイモ

サトイモ、明日葉、小松菜、大根、人参、ニンニク

果物

イチゴ、ブルーベリー、ミカン、梨、ブドウ、モモ

その他

落花生、茶、牧草

道の駅再整備

地中熱を活用し、駐車場の**融雪**と施設の**空調**を行う。
⇒再エネを活用した産直機能と防災機能を備えた拠点

太陽光発電設備・EV充電設備も整備

令和7年度開業予定



■ 邑南町が目指す脱炭素のまちづくり

脱炭素 + ○○

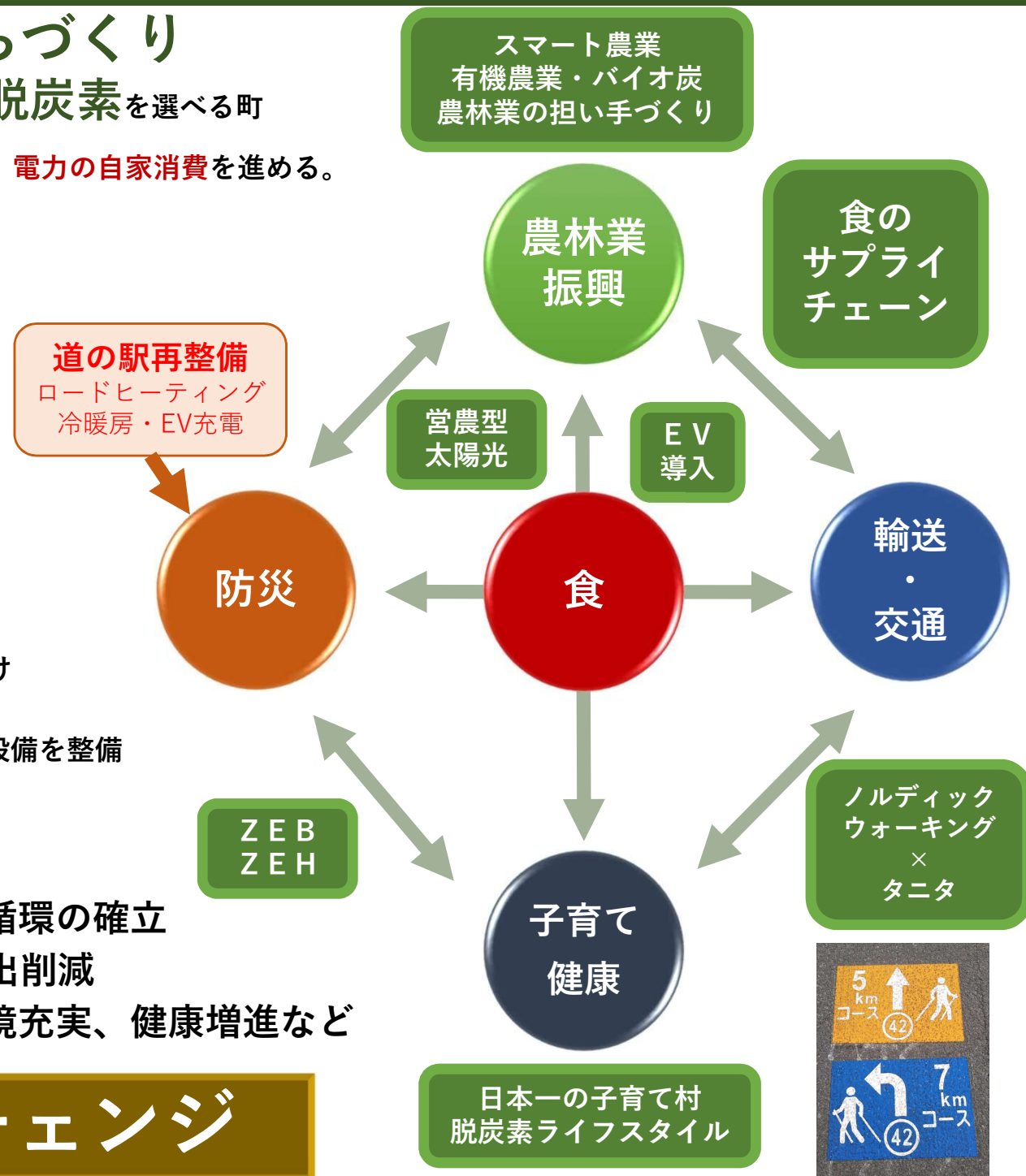
→ いつの間にか脱炭素を選べる町

- ① PPAモデルを活用し、太陽光パネルと蓄電池を設置し、電力の自家消費を進める。
 - ・ おおなんきらりエネルギーの設立
- ② 道の駅瑞穂再整備にあたり設備の脱炭素化
 - ・ 地中熱を利用した融雪設備の導入
 - ・ 地中熱を利用した空調設備の導入
 - ・ EV充電設備と蓄電池の導入
- ③ 有機農業・スマート農業の推進
 - ・ ハウス暖房のエネルギー源の電化
 - ・ 化学肥料の削減
 - ・ ソーラーシェアリングの推進
- ④ 「食のサプライチェーン」の脱炭素化
 - ・ 農業資材調達⇒生産⇒集出荷⇒販売⇒消費
- ⑤ 豊かな森林資源を活用し、暮らしの豊かさを追求
 - ・ CO2吸収量の確保や熱エネルギー源としての価値付け
- ⑥ 日中の需要を夜間電力や緊急時の電源供給に活用
 - ・ 勤務先など長時間自動車が停車する場所へ普通充電設備を整備

効果

- ① 電力の地産地消・自家消費による経済循環の確立
- ② 電力消費に限らず各事業分野でCO2排出削減
 - ⇒ 産業の更なる振興や防災、子育て環境充実、健康増進など

脱炭素へのモデルチェンジ





こんなことも始めました

脱炭素 ×  Shimane Prefectural Yakami High School 島根県立矢上高等学校

脱炭素Challengeポロシャツ with 矢上高校

価 格 2,980円(税込)

サイズ S・M・L・LL

販売受付 おおなんきらりエネルギー株式会社

050-5207-2001

ohnan.kirari@gmail.com



メール



このポロシャツの売上げは、再生可能エネルギーの発電設備導入など脱炭素に資する事業に活用する他、ロゴマークを考案いただきました島根県立矢上高等学校の生徒の皆様の活動に対し、寄付されます。